



**コウノトリの研究で功績
第20回山階芳麿賞を受賞**
えざきやすお
江崎保男さん(66歳)

県立コウノトリの郷
公園統括研究部長



国内の優れた鳥類研究者や保護活動に寄与した方に贈られる賞、山階芳麿賞を受賞したのが、江崎保男さんです。守り育てる保護ではなく、住処や餌場を整え自立を促す、コウノトリ「保全」の取組みなどが認められての受賞でした。地域の皆さんの協力もあって140羽のコウノトリが野外で生活するようになった今、江崎さんが目指すのは「淡水魚を食べる文化を復活させること」です。現在全国的に食べられている淡水魚はアユやウナギなど少数であるため

生息環境の悪化も軽く見られがち。しかし、淡水魚の需要が増えればこの事態は好転し、コウノトリの餌が増えるという発想です。本市の自然再生アクションプラン検討会議の委員長や、県立コウノトリの郷公園に隣接する県立大学大学院の教授も務める江崎さん。研究の成果が野生復帰への取組みの指針となっています。学生の教育研究では「国際ジャーナルにコウノトリ研究の論文を掲載し、世界に広く発信したい」と意気込みます。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲レガッタ大会でトップを力漕する城崎中学校ボート部(右)

円山川城崎ボートフェスティバル 夏休み最初の土・日曜日のボートイベント

7月21・22日、城崎ボートセンター周辺で「円山川城崎ボートフェスティバル」が開催されました。21日は、水辺のスポーツを楽しむ「リバーフェスタin円山川」が行われ、約60人の親子らが、インストラクターの指導の下、カヌーやカヤックを体験しました。22日には「城崎レガッタ」大会が行われ、ボートの初心者から、経験者までの幅広いチーム27組がエントリーし、9月に大津市で行われる全国大会への出場権をかけ、熱戦を繰り広げました。猛暑日となった2日間、参加者は、水辺の爽やかな風を感じながら、円山川の自然の中で行われたボートイベントを楽しみました。

川魚のつかみ捕り体験・野菜の収穫体験 二連原ならではのおもてなし

7月22日、竹野町二連原の三椒川河川敷で、県内を中心に約90人の親子らが、川魚のつかみ捕りや野菜の収穫(主催・二連原区)を体験しました。参加者は川に放たれた約230匹のヤマメを素手でつかんだり、たも網ですくって捕獲。ヤマメはその場で炭火で焼かれ、地元の食材を使ったカレーライスやトマト、キュウリなどと共に振る舞われました。また、隣接する畑ではジャガイモやピーマンなどの収穫体験もあり、参加者は二連原の幸を堪能していました。区長の太田吉男さんは「二連原ならではののもてなしで、よその人に二連原を知ってもらおうきっかけになれば」と期待を込めていました。



▲捕れたて焼きたてのヤマメのバーベキュー